6．教　育

明治１１年（１８７８）１月２０日、中俣と海潟の両学舎を合併し、協和小学が設立されました。校地は海潟１番地（現在の上之原温泉の敷地）でした。明治２０年（１８８７）に、小学校令改正により協和簡易科小学校と改称、さらに明治２６年（１８９３）協和尋常小学校と改称されました。明治４０年（１９０７）～明治４２年（１９０９）に先生をされた東キワさん、海江田トエさんの話によると『男の先生は洋服、女子職員は和服に海老茶の袴、草履をはいていました。校舎は板壁で、窓は障子。４０人～６０人学級で男女別々に勉強。科目は読み方、書、綴り方、算術、体操、唱歌、修身、裁縫等。教科書は兄さんや姉さんの使ったものや古い本をもらって勉強。修学旅行は福山まで歩いて一晩泊まり。運動会は１１月の１日か３日でずいぶん盛大だった。子どもは遊びも登下校もはだし。言葉は昔から乱暴で、父親のことを「じょ、わやー」と言っていた。』とあります。垂水市史によると、大正元年（１９１２）には１３学級、男女合わせて６００名が学んでいました。

昭和 28 年（1953）頃の協和小、中学校

大正２年（１９１３）６月には天神下に校舎が移転し、大正１０年（１９２１）校名が協和尋常高等小学校と変更されました。同じ年に協和小学校に勤務された前之園ひもさんによると『協和小学校はスポーツが盛んで、徒歩やリレーは県下でも抜群。選手たちが協和校の負けじ魂を発揮して、何本も優勝旗を頂いて校長室に飾ってありました』と語っておられます。篠原和江さんは大正１５年（１９２６）に協和小学校に入学されたのですが『着物にはだしという登校姿でどんなに冷たく寒い日でも履き物は一切許されず、朝礼は感覚のなくなった足の型がずれないように辛抱強く立っていた。赤ちゃんを背負って学校に来る生徒がたまにはあったほど学校から帰れば、農業・家事・子守等の仕事が待っているので、宿題を学校で

昭和 38 年（1963）頃の協和中学校